

平成21年度 科学研究費補助金（学術創成研究費）
事後評価結果

研究課題名	弥生農耕の起源と東アジア－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－	研究代表者名 (所属・職)	西本 豊弘（国立歴史民俗博物館・研究部・教授）
-------	-----------------------------------	------------------	-------------------------

研究課題の総合的な評価

該当欄	評価基準
A+	期待以上の研究の進展があった
○ A	期待どおり研究が進展した
B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
C	十分な進展があったとは言い難い

評価意見

本研究課題は高精度 AMS 炭素 14 年代測定法を用いて資料の実年代を確定し、日本の稲作農法の開始期と展開の様相を新たな角度から照射し、旧来の弥生文化像を全面的に再検討しようとしたものであり、5 年間の研究期間内に、約 1 万点の測定資料を収集し、そのうち 5 千点を分析した結果、稲作先進地帯の九州北部での水田稲作農耕が、旧来の通説であった紀元前 5 世紀から約 500 年遡る紀元前 10 世紀末頃に開始されたとする新知見が得られた。

ただし、研究成果の一つとして、日本独自の較正年代確立の必要性などが明らかになった一方で、当初計画されていた韓国、中国、極東ロシアなどの国際共同研究は実質を伴っていたとは言えず、研究課題の一部をなす「東アジア」の側面が十分に検討がされたとは言えない。

さらに、国際的に先史時代の年代学的研究が大きな関心となっている状況の中で、本研究の成果が国際的に著名な年代学、先史学関係の雑誌に報告されれば、大きな学問的論議を呼んだと思われるが、成果の国際発信という点が十分でなかったのも惜まれる。

今後こうした点の充実を図りながら、新知見のさらなる検証、補強と、新説が提示する当該時代における東アジア歴史像の体系化を期待したい。